

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	2 3		学校名	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校				課程	全日制		学校長名			秋山 克巳			
副校長名	橋本 浩一				教頭名		田中 淳子				主査兼事務長名			佐藤 健一			
教職員数	教諭	5 6	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手、ALT		1	事務職員	4	技術職員等	3	計	7 7
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科			2 0 1	1 1 9	2 1 8	1 0 1	1 9 6	1 1 7			6 1 5	3 3 7	2 4			

2 目指す学校像

21 世紀を担う若者としての勤労観・職業観を培うために、高い次元の「文武両道」を教育目標に掲げ、進路指導の充実と部活動の奨励に努め、思いやりのある豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 グローバル化が進む中、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う等、本校が創立以来推進している国際教育の振興に努める。

3 三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	・ 21 世紀を担う若者としての勤労観・職業観を備え、自主的・自律的に学習に取り組むことができる人財。 ・ 思いやりのある豊かな心を持ち、将来への夢を育むことができるたくましい人財。 ・ 異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を備えた人財。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	・ 主体的、対話的で深い学びの推進を図るとともに、上級学校への進路実現を目指す。 ・ 「文武両道」のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 ・ 国際理解教育、国際交流活動の推進を図り、国際化に対応できる人材の育成を目指す。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	・ 中学で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身に付けようとする生徒。 ・ 部活動や様々な学校行事に意欲的に取り組み、協働的な学びを大切にしようとする生徒。 ・ 本校で身につける資質・能力を発揮して、様々な課題に主体的に取り組む、自己と異なる意見も尊重し、国際社会で活躍しようとする意欲のある生徒。

別紙様式 1

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
教 科 指 導	・上級学校への進学を希望する生徒が多く、授業への取組む姿勢も良い。一方で主体的な取り組みよりも受け身になってしまう生徒が見られる。 ・平日の家庭学習 1 時間以下の生徒が 1 年生 66.9%、2 年生 42.9%であり、自主学習時間の充実が求められる。 ・生徒の課題解決能力を高めるために、授業方法の改善が求められる。 ・教科学習においては、思考力や記述力を要する問題に課題が見られる。	・文武両道の実現に向けて、効率的な自主学習の実践を定着させる。 ・思考力、判断力、表現力を高めるために総合的な探究の時間の学習を計画的に実践する。 ・生徒のより主体的、対話的で深い学びの一層の実現に向けて、ICT を活用した授業研究・研修を推進する。
生 徒 指 導	・マナーアップ週間における服装頭髮指導や交通安全指導等を、保護者や校紀委員の協力を得て実施、基本的生活習慣が向上している。 ・交通指導を実施し、交通マナー・自転車の安全な乗り方の意識が高まるよう努めているが、より一層の登下校時の自転車乗車マナーの向上が求められる。	・毎月のマナーアップ週間を計画的に実施し、規範意識のさらなる高揚を図り、豊かな心の育成を推進する。 ・交通安全指導を更に充実させ、ヘルメットの着用を含めた自転車乗車マナーの一層の向上を目指す。
進 路 指 導	・3 年間継続したキャリア教育・進路指導により令和 4 年度大学入試は、国公立大学は 103 名、私立大学 691 名合格等、進路希望は達成された。 ・年間 2 回の面接週間のほかにも複数回の面談を実施し、よりよい進路実現に向けての取組を推進している。	・思考力、判断力、表現力の評価を目指す「大学入学共通テスト」への対応を推進する。 ・「総合的な探究の時間」等の活用によるキャリア教育を推進し、主体性や創造性の育成を推進する。
国 際 教 育	・グローバル人材を育成するため、オーストラリア短期留学やブリティッシュ・ヒルズ英語研修、異文化理解のための留学生による講話などを計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実践できていない。 ・常駐する A L T との授業等の交流を通し、英語でのコミュニケーション能力の育成に努め、英検準 2 級全員受験を推奨することにより、国際社会で通用する英語力の向上に努めている。令和 4 年度卒業生のうち、本校を準会場で実施した分の英検準 2 級取得者の割合は 70.2%であった。(コロナ禍で、全員受験に至らなかった。生徒が個人的に受験している S-CBT 受験は除く)	・オーストラリア短期留学、ブリティッシュヒルズ英語研修、東京グローバルゲートウェイ研修の事前・事後研修等の充実、異文化セミナー等の円滑な実施により、国際理解、国際交流を推進する。 ・留学生や日本在住の外国人の方々との交流の機会を、より多くの生徒に持たせる。 ・年 3 回実施される英検のより良い受験体制を検討・整備する。
特 別 活 動	・LHR は各学年、各クラスとも計画的に実施されている。 ・文化祭・校内祭・体育祭を 3 年サイクルで実施しているが、昨年度の体育祭は実施時期を変更した。体育的行事については、実施時期を再検討する必要がある。 ・部活動加入率は 92%であり高い加入率を継続している。現状の活動状況を継続しつつ、県の新たな方針に対応していく必要がある。 ・芸術鑑賞会（古典芸能・演劇・音楽を 3 年サイクルで実施）の開催により、芸術の歴史や魅力について深く知り、よく考える機会が提供できている。	・特別活動における自らの学びのプロセスを蓄積し、継続的かつ系統的に振り返ることができるようにする。 ・学校行事のあり方を検討し、位置づけ、日程・内容を精選・工夫する。 ・部活動加入率のさらなる向上と定着を図る。 ・授業・家庭学習と特別活動の両立を図る。 ・効率的で効果的な練習及び活動を推進する。
働き方改革	・「きんむくん」により勤務時間の管理に取り組んでいる。教職員は積極的に業務に取り組んでいる。	・新しい勤怠管理システムを活用し、意識改革を行う。 ・業務改善を検討し、教職員の時間外勤務時間を縮減し、長時間勤務の解消を図る。

別紙様式 1

5 中期的目標

- 1 生徒一人ひとりが将来の進路を見据え、自主的・自立的に学習に取り組めるようにする。
- 2 「文武両道」の精神のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成に努める。
- 3 国際理解教育、国際交流活動を通して、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う。
- 4 業務改善による働き方改革に取り組み、より一層充実した教育活動ができるように努める。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
学習指導と進路指導の充実と 授業改善	① 生徒一人一人の進路実現に向けて、個に応じたきめ細やかな学習指導と進路指導の推進 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 ・タブレット PC を円滑に導入し、電子黒板等 ICT 機器の効果的な活用方法を検討する。 ・各種進路行事、課外、模試のあり方の再検討を常に行い、生徒の進路目標達成に努める。 ・新教育課程による学習指導が円滑に実施できるよう教職員が連携し工夫・改善に努める。 ・生徒による授業評価（授業満足度）の肯定的評価 80%以上を目指す。
部活動等の推進	② 第 1 希望の進路達成と、部活動における人格育成と上位大会出場を目指す「高い次元の文武両道」の実現 ・特別活動、部活動を通して人格育成を推進し、全人的な人間性の向上を図る。 ・部活動加入者の増加を図るとともに、生徒一人一人が文武両道の実現に取り組むよう努める。 ・部活動集会を実施するなど、学校全体の一体感を深め、上位大会入賞を目指す体制づくりに努める。 ・特別活動において、生徒の主体的な活動により、活力ある学校・クラスづくりを目指す。
国際教育活動の推進	③ 国際理解教育、国際交流活動を通し、国際化に対応できる人材育成の推進 ・オーストラリア短期留学、ブリティッシュヒルズ英語研修、東京グローバルゲートウェイ研修の事前・事後研修等の充実、異文化セミナー等を円滑に実施する。 ・ALT の活用、英検準 2 級全員受験により、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。 ・留学生や近隣在住の外国の方々との交流を通して、国際化に対応できる人材を育成する。
働き方改革の推進	④ より一層の教育活動の充実のため、業務改善に取り組み、勤務時間の適正化を推進 ・スクラップアンドビルドによる業務改善等に取り組み、勤務時間の適正化に努める。 ・ICT 活用等を推進し事務作業の効率化を図る。 ・勤務時間のあり方に関する意識改革を図るとともに、関係者の理解を得られるよう努める。